

病害虫 防除だより

No. 379

令和7年3月 6日

春先からのトマトキバガ対策 ～ハウス内ではらくらく越冬～

侵入害虫のトマトキバガの生態について、新たな情報が報告され少しずつ明らかになっています。耐寒性に関してはかなり強く、5℃で60日生存し、日中気温が上がると更に生存率が高まる試験結果があり、降雪地域でもハウス内での越冬が可能です。

定植前から対策を行い、栽培期間中はハウス内外をよく観察し、発生が見られたら直ちに薬剤で防除しましょう。

1. 侵入防止対策

トマト栽培ハウスでは、開口部全部に防虫ネット（目合い0.8mm以下）を設置し、トマトキバガのハウス内への侵入を防ぐとともに、ハウス外への逃げ出しを防ぐ。ハウス内、施設周辺の除草をして、生息域を減らす。

2. 初期加害対策

ダメージが大きい定植直後の食害を防ぐため、定植前の苗に寄生していないか観察し、育苗期後半～定植時前後に薬剤を施用する。

表 トマトキバガに登録のある農薬のうち育苗期後半～定植時期に使用できる農薬（令和7年3月3日現在）

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	散布液量 (L/10a)	使用時期	使用 回数	適用作物		使用方法
						トマト	ミニトマト	
28	ベリマークSC	400株当り 25ml	400株当り 10～20L 1株当り25～ 50mL	育苗期後半～定植当日	1回	○	○	灌注
	プレバゾンフロアブル5	100倍	1株当り 25mL	育苗期後半～定植当日	1回	○	○	灌注
	プリロツソ粒剤オメガ	2g/株		育苗期後半～定植時	1回	○	○	株元散布

3. 診断のポイント

ごく初発時はハモグリバエの食害痕（白線状 図1）に似ているものがあるので、しっかり観察して登録薬剤で防除する。トマトキバガの食害痕は幅広で白～肌色に袋状に透けており、中に虫糞や幼虫が見える場合も多い（図2）。また、幼虫の頭部には黒色帯があり（図3）、成虫は約5～7mm（静止時）の大きさである（図4）。



図1 ハモグリバエ食害葉

図2 トマトキバガ食害葉

図3 幼虫（終齢幼虫約8mm）

図4 成虫（植物防疫所原図）

令和7年度農作物病害虫防除指針 <https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021033/shokuryouanzen/boujoshishin.html>

◇◇◇ 最新の農薬登録情報 (<http://pesticide.maff.go.jp>) を確認して下さい ◇◇◇

福井県農業試験場病害虫防除室

連絡先：0776（54）9315

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo.html>

QRコードをスキャンしてください→



福井県病害虫防除室

